

小 学 校

平成 2 6 年度

# 教育研究員研究報告書

体 育

東京都教育委員会

## 目次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	2
IV	研究構想図	2
V	研究の方法	3
VI	研究の内容	3
1	基礎研究	
(1)	運動の楽しさについて	3
(2)	課題解決的な学習の在り方の明確化	4
(3)	言語活動の充実について	5
2	調査研究	
(1)	平成25年度東京都統一体力テストの考察	5
(2)	研究員所属校の教師・児童に対するアンケート調査の考察	6
3	研究の視点に基づいた内容	
(1)	課題解決的な学習の在り方の明確化	9
(2)	指導と評価の工夫	11
4	各学年実践例	
(1)	低学年実践例	
ア	単元名	12
イ	単元の目標	12
ウ	単元の評価規準	12
エ	本時の学習	13
オ	単元計画・評価計画	14
カ	思考・判断に焦点を当てた支援計画	15
(2)	中学年実践例	
ア	単元名	16
イ	単元の目標	16
ウ	単元の評価規準	16
エ	本時の学習	17
オ	単元計画・評価計画	18
カ	思考・判断に焦点を当てた支援計画	19
(3)	高学年実践例	
ア	単元名	20
イ	単元の目標	20
ウ	単元の評価規準	20
エ	本時の学習	21
オ	単元計画・評価計画	22
カ	思考・判断に焦点を当てた支援計画	23
VII	成果と課題	24

# 研究主題「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考え工夫する体育学習」

～ 体づくり運動を通して ～

## I 研究主題設定の理由

平成20年1月中央教育審議会答申において、運動する子供とそうでない子供の二極化の傾向や、子供の体力の低下傾向が依然深刻なこと、運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜び、その基盤となる運動技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例も見られることなどが指摘されている。さらに、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査では、以前より我が国の児童・生徒については思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題があると指摘されており、平成21年の調査結果からは、各教科等の目標の実現のために言語活動の充実が必要であるとも指摘されている。

また、東京都では子供を取り巻く諸環境が著しく変化し、子供の身体活動に必要な三つの間（時間・空間・仲間）が減少している。このような環境の中、平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における第5学年の体力・運動能力は、男女ともに向上傾向にあり全国水準まで向上したものの、依然、高い水準とはいえない。平成25年4月には、東京都教育ビジョン（第3次）が策定され、東京都の目指すこれからの教育の基本理念として「社会全体で子供の『知』『徳』『体』を育み、グローバル化の進展など変化の激しい時代における、自ら学び考え行動する力や社会の発展に主体的に貢献する力を培う」ことが明示された。

これらの現状を踏まえると、小学校体育科においては、子供に運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、限られた時間の中で運動の質・量を確保し、効率的に運動の効果をあげることが必要である。また、筋道を立てて練習や作戦を考えたり、動きを選んだり、工夫したり、改善の方法などを互いに話し合ったりする活動の中で言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育むための指導の充実も必要である。さらに、体育の時間以外にも、自ら体を動かそうとする意識を向上することができるような指導も求められている。

そこで、本部会では、子供一人一人が、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考え工夫しながら自分の課題を解決する学習をすることが、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることにつながると考え、本主題を設定した。

## II 研究の視点

現行の学習指導要領から全ての学年で実施されることになり、一層の充実が求められている「体づくり運動」を対象に、以下の2点の視点から研究を進めた。

### 1 課題解決的な学習の在り方の明確化

体育科における課題解決的な学習の在り方を明確にし、体づくり運動の学習の中で思考力・判断力・表現力等を高めるために、2年間を見通した単元計画や一単位時間の授業を工夫する。

## 2 指導と評価の工夫

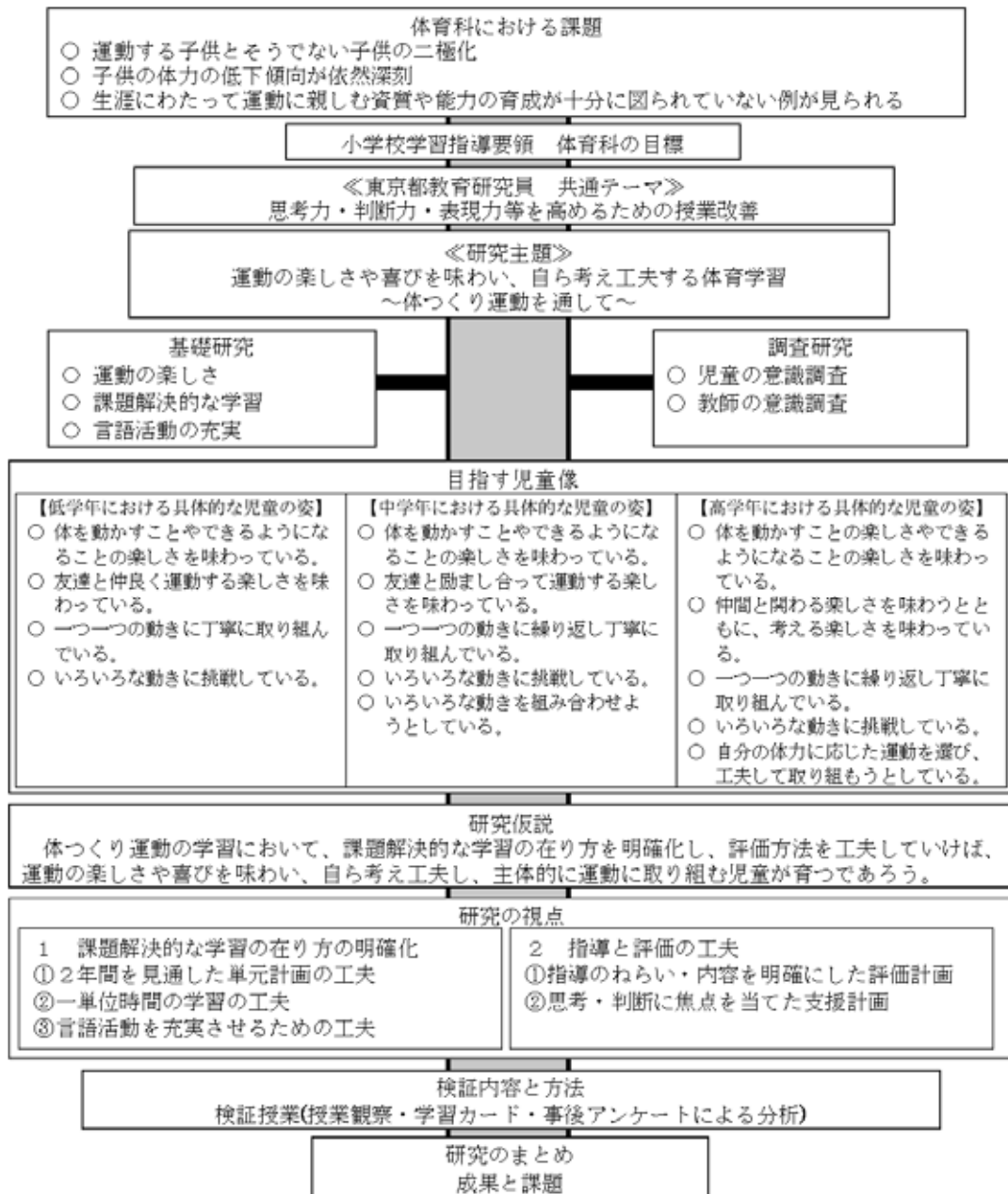
指導の内容・ねらいを明確にした評価計画及び思考・判断に焦点を当てた支援計画を作成し、児童の課題解決的な学習への取組を計画的に支援する。

## III 研究仮説

体づくり運動の学習において、課題解決的な学習の在り方を明確化し、評価方法を工夫していけば、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考え工夫し、主体的に運動に取り組む児童が育つであろう。

体づくり運動における課題解決的な学習の在り方を明確にし、指導のねらいと評価を明らかにした指導計画や思考・判断に焦点を当てた支援計画を作成し、評価方法を工夫すれば、研究主題を達成できると考え、研究仮説を設定した。

## IV 研究構想図



## V 研究の方法

### 1 基礎研究

体づくり運動における「運動の楽しさ」、それを味わわせる「課題解決的な学習」の在り方を先行研究及び先行実践を基に分析した。

### 2 調査研究

「平成 25 年度東京都統一体力テスト」から、児童の体力と運動・スポーツに対する意識や休み時間の運動時間との相関関係を分析した。また、教師が授業をするにあたって、より有効に活用できる授業展開を提案するため、児童及び教師への質問用紙による調査を行った。

### 3 実践的研究

基礎研究と調査研究で明らかにした内容を基に、低・中・高学年での実践的研究を通して、研究主題が有効であったか検証した。

## VI 研究の内容

### 1 基礎研究

#### (1) 運動の楽しさについて

平成 23 年度東京都教育研究員小学校体育部会の研究において、運動の楽しさについて次のア(ア)(イ)のように示されている。

#### ア 発達の段階に応じた運動の楽しさ

##### (ア) 「楽しさ」とは

フロー(英語: Flow)とは、人間がそのときしていることに、完全に没頭し、精神的に集中している感覚に特徴付けられ、完全にのめり込んでいて、その過程が活発さにおいて成功しているような活動における、精神的な状態をいい、ZONE、ピークエクスペリエンスとも呼ばれる(図1 楽しさの流れのモデル)。心理学者のミハイ・チクセントミハイによって提唱され、その概念は、あらゆる分野に渡って広く論及されている。

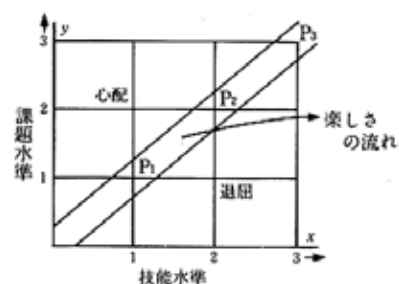


図1 楽しさの流れのモデル

(ミハイ・チクセントミハイの図を一部修正)

#### (イ) 運動の楽しさ

楽しさの因子	活動内容
挑 戦	苦しいことや辛いことを最後までやり抜いたり、苦しい練習に耐え、できないことを何度もできるまで練習したりするなどの挑戦をすること。
勝 利 感	試合で勝つことにより、勝利感を味わうこと。
創 造 的 活 動	運動によって何かを発見したり、自分たちで目標を立てたり、計画を立てたりして練習するなどの創造的活動をすること。
称 賛	みんなから拍手されたり、応援してもらったり、先生やほかの人にほめられるなど称賛されること。
健 康	健康な体になったり、体調がよくなったり、運動後気分がさっぱりするなど心身が健康になること。
競 争	記録や順位を競ったり、向上させたりして競争をすること。
集 団 活 動	みんなとはしゃいだり、笑いあったり、時には遊んだりして、みんなと一緒に運動ができること。
観 戦 ・ 応 援	人の運動を見たり、応援したりすること。
ス リ ル 感	素晴らしいプレイができるようになったり、スリル感を味わったりすること。
自 己 実 現	できなかったことができるようになったり、人ができないことが自分にできること。また、人よりはやくできたり、よい記録をつくるなど自己実現の欲求を充たすこと。

(ア)の図1によると、児童の技能水準を把握し、一人一人の技能に適した課題を与えることが楽しさの体感につながると考えられる。よって、技能水準と課題の難易度とのバランスや発達の段階に応じた運動の楽しさについて考え、指導法を工夫することが必要である。

(イ)から、運動の楽しさには、多くの因子があり、これら全ての因子を児童が楽しいと感じるのではなく、発達の段階、運動の特性によっても異なると考える。そこで、運動の特性を踏まえ、発達の段階や児童の実態によってどのようなときに楽しいと感じるかを調査し、その結果を踏まえて指導法を工夫することが必要である。

## (2) 課題解決的な学習の在り方の明確化について

小学校学習指導要領第1章総則 第1の1より

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

第二期教育振興基本計画より

基本施策1

確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

### 【基本的な考え方】

○子供たちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力を身に付けさせるため、教育内容・方法の一層の充実を図る。その際、特に、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などの育成を重視する。

このことを踏まえ、本部会では課題解決的な学習を次のように定義する。

身に付けた知識・技能を生かし、自分(自分たち)の力に合わせた課題を設定し解決する。そして、その学習を振り返り、新たな課題を設定するという一連の学習のサイクル

身に付けた知識・技能とは、前学年、及び前時まで身に付けた知識・技能と捉える。それを生かし、自分(自分たち)の力に合わせた課題を設定させる。発達の段階に応じて、一単位時間の学習を工夫することで、課題の解決を図ることができるようにする。また、各学年の系統性を意識した2年間の単元計画を作成することで、新たな課題を設定させ、解決していくという学習のサイクルを形成していく。

この課題解決的な学習をより効果的に進める上で重要となるものを言語活動と捉え、学習活動に意図的に取り入れていく。

### (3) 言語活動の充実について

#### 学習指導要領総則より

各教科の指導にあたっては、児童の思考力、判断力、表現力をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。

知識・技能を習得すること、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現することの中には、言語によって行われるものが多くあり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力である。さらに、言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。したがって、今回の改訂においては、言語に関する能力の育成を重視し、各教科において言語活動を充実することとしている。

そして、児童の言語活動は、児童を取り巻く言語環境によって影響を受けることが大きいので、学校生活全体における言語環境を整備することも大切である。そこで、小学校体育科においても学習指導要領総則に示されている下記の2点を重視する。

- ①適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること
- ②教師と児童、児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること

そして、体育科の特質を踏まえて学習活動の中に以下の内容を取り入れ、言語活動の充実を図っていく。

- ①適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること
  - ・学習カード
  - ・掲示物
  - ・学習資料
- ②教師と児童、児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること
  - ・言葉掛け
  - ・場
  - ・一単位時間の学習

## 2 調査研究

### (1) 平成25年度東京都統一体力テストの考察

#### ア 調査の目的

児童の体力と運動・スポーツに対する意識や休み時間の運動時間との相関を分析し、運動・スポーツに対する意識が体力向上に果たす重要性を明らかにする。

#### イ 調査の方法

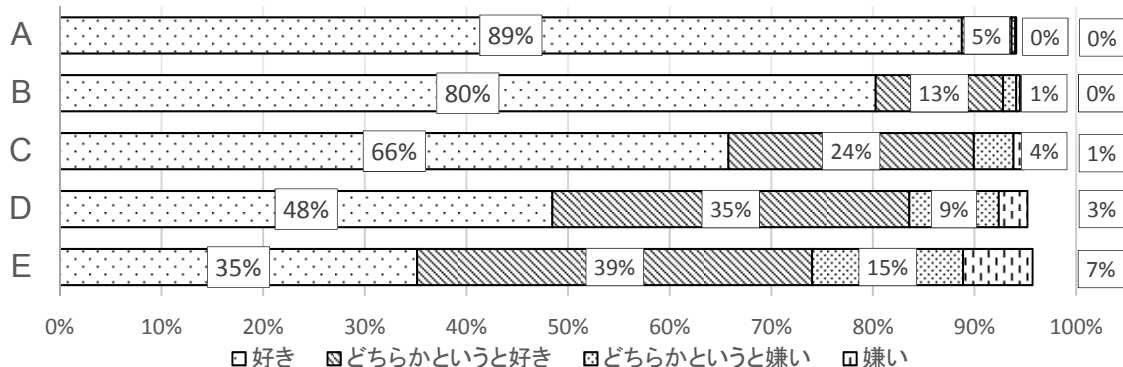
平成25年度東京都統一体力テストにおいてA～Eに分類された総合評価と生活・運動習慣等に関する調査のクロス集計を基に分析を行う。

#### ウ 調査対象者数

平成25年度東京都統一体力テスト 調査児童（551,287人）のうちの有効データ数363,504人クロス集計に必要な項目が未記入のデータについては調査データ外とした。

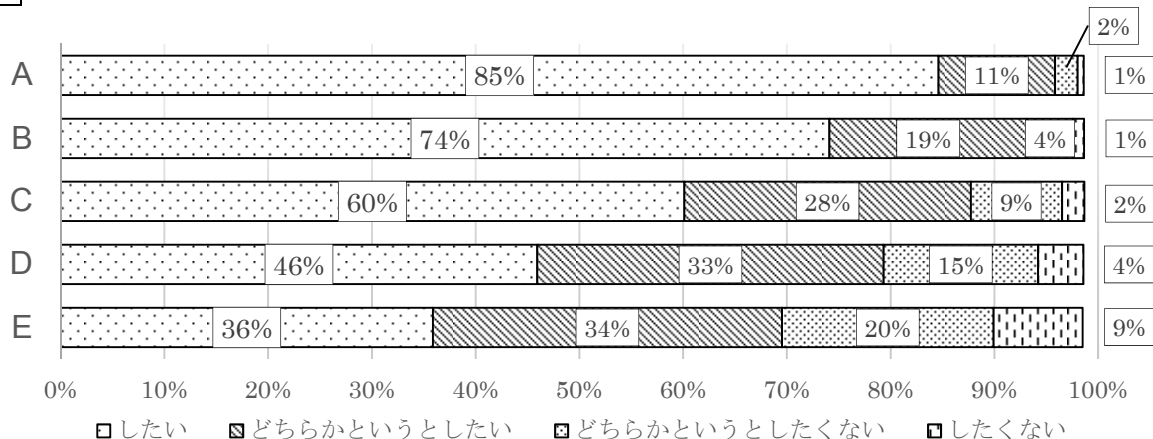
エ 調査の結果と分析

① 〈体力・運動能力の総合評価と「運動やスポーツをすることは好きですか。」のクロス集計〉



総合評価E層の児童は、好きと答える児童が、半数以下になっている。総合評価が低くなるにつれて、好き群の児童が減り、嫌い群の児童が増えている。

② 〈体力・運動能力の総合評価と「運動やスポーツをもっとしたいと思いますか。」のクロス集計〉



総合評価が低くなるにつれて、したい群の児童が減り、したくない群の児童が増えている。また、総合評価D、E層は、したいと答える児童が半数以下になっている。

①を見ると平成25年度東京都統一体力テストで総合評価Aの児童は94%が「運動が好き」と答えており、総合評価が低くなるにつれて運動が好きな児童の割合が減っている。また、②の資料からも同様に、総合評価が低くなるとともに児童の運動に対する意欲が下がっていることが分かる。このことから、児童の意欲を高め運動やスポーツに対して主体的に取り組むことができれば、休み時間に運動する児童が増えることにつながり、児童の体力向上を図ることができると考えた。

(2) 研究員所属校の教師・児童に対するアンケート調査の考察

ア 調査の目的

教師が授業をするにあたって、より有効に活用できる授業展開を提案するため、教師・児童の体づくり運動領域に対する意識を調査する。

イ 調査対象者

平成26年度東京都教育研究員の所属する学校の教師・児童

教師 320名、低学年児童 1,981名、中学年児童 1,642名、高学年児童 1,702名



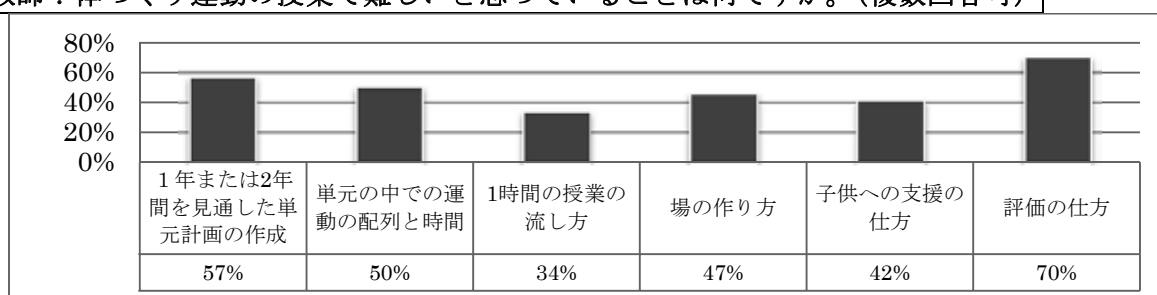
ウ 調査時期 平成 26 年 9 月から 11 月まで

エ 調査の結果

**教師：体づくり運動の学習で次のことは指導しやすいですか。**

	体ほぐしの運動	多様な動きをつくる運動(遊び)	体力を高める運動
1 指導しやすい	4%	4%	2%
2 まあ指導しやすい	44%	41%	35%
3 少し指導しにくい	35%	33%	34%
4 指導しにくい	14%	17%	18%
5 指導したことがない	3%	5%	11%

**教師：体づくり運動の授業で難しいと思っていることは何ですか。(複数回答可)**

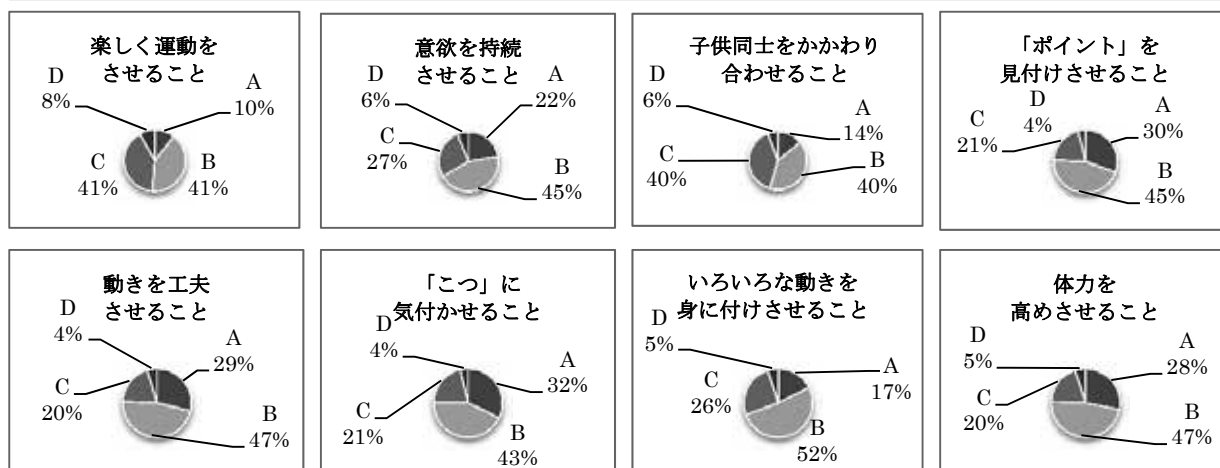


体づくり運動の学習に対し、「少し指導しにくい」「指導しにくい」と答えた教師が半数以上見られた。また、担当した学年等により、指導したことがないという教師も見られた。さらに、指導計画の作成や評価の仕方に悩みを感じている教師が多いことが分かった。

そこで、多くの教師が体づくり運動のねらいを理解して指導に取り組めるような、単元計画・評価計画や資料を作成する必要があると考えた。

**教師：体づくり運動の指導において何が難しいと感じていますか。**

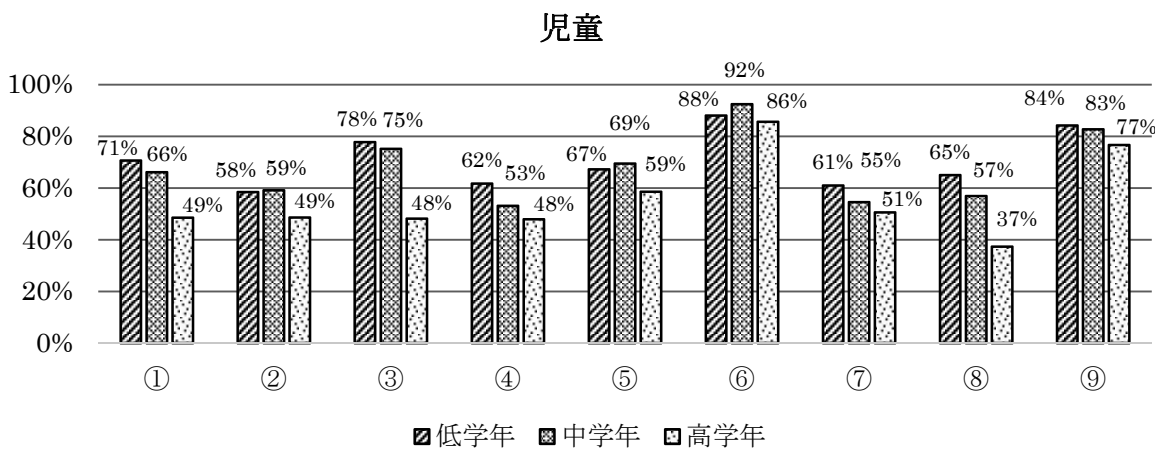
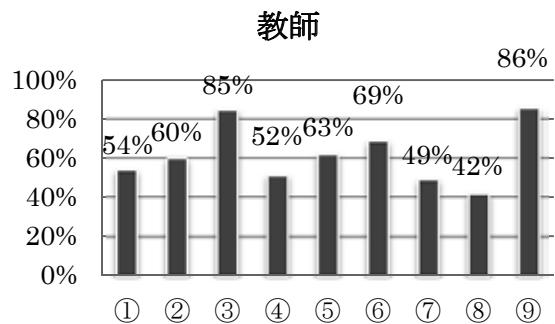
A：当てはまる B：少し当てはまる C：あまり当てはまらない D：当てはまらない



意欲を持続させること、体力を高めさせることについての項目が難しいと感じている教師が多い。また、本研究に関わるポイントを見付けさせる、「こつ」に気付かせる、動きを工夫させるといった、思考・判断に関わる項目を難しいと感じている教師が多かった。

**教師・児童：体育の授業で、楽しいと思うことは何ですか。**

- ①最後までやりとげ、挑戦する。
- ②こつを発見したり、目標や計画を立てたりする。
- ③拍手をもらったり、応援してもらったり褒められたりする。
- ④気分がさっぱりしたり、体調がよくなったりする。
- ⑤記録を競ったり、順位を競ったりする。
- ⑥みんなと一緒にしゃいんだり、笑ったり、遊んだりする。
- ⑦人の運動を見たり、応援したりする。
- ⑧スタートの直前や素晴らしいプレーをした時などドキドキする。
- ⑨できなかったことができるようになる。



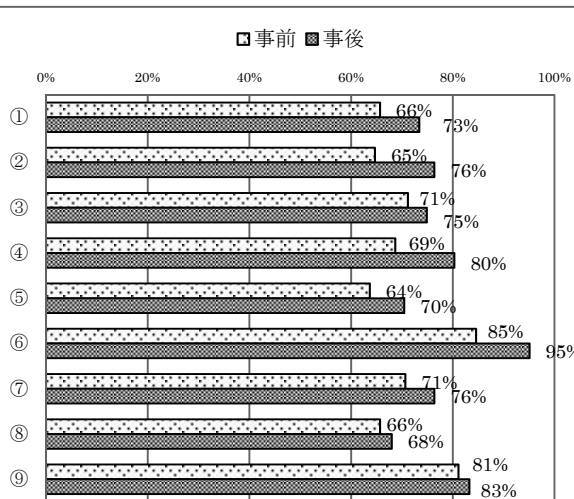
運動の楽しさの9因子(10因子のうち、体づくり運動領域には適さない勝利感を除いて調査)には、技能によらず、楽しさを味わえる項目が多い(項目①～⑧)。しかし、意識調査の結果から、学年によらず体育の授業の中でそれらの楽しさを味わえていない児童が多いことが分かった。特に、項目の④、⑦、⑧は、他の項目に比べて楽しいと感じる児童が少なかった。この結果は、教師も同様の結果となっており、教師の感じ方が児童に影響しているとも考えられる。

さらに、低・中・高学年の結果を比較してみると、学年が上がるにつれて味わえている楽しさが少なくなっている項目が多いことが分かった。

そこで、体づくり運動を通して、様々な運動の楽しさを味わうことで、主体的に運動に取り組める児童が増えると考えた。

**(3) 検証授業事前・事後調査結果**

前項(2)と同様の調査を、検証授業後に実施した。(検証授業を行った児童のみ)結果を見ると、全ての項目の数値が向上し、様々な運動の楽しさを味わっていたことが分かった。特に、②、④、⑥は10%以上向上し、そのうち、主体的に運動に取り組むために必要な②や他領域で味わいにくい④を味わうことのできる児童が増えたことは、主体的に運動に取り組む児童を育む上で本研究が有効であることを示唆している。



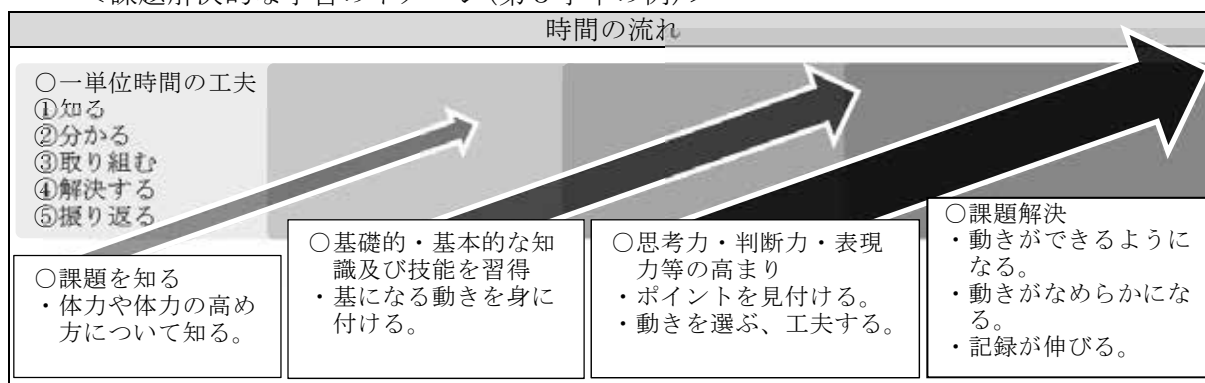
### 3 研究の視点に基づいた内容

#### (1) 課題解決的な学習の在り方の明確化

##### ア 2年間を見通した単元計画の考え方

多様な動きをつくる運動(遊び)や体力を高める運動で体力を高めていくためには、思考・判断させながら運動に取り組ませていくことが大切である。そこで、身に付けた知識や技能等を活用し、課題解決的な学習を行えるよう、2年間を見通した単元計画を作成した。

<課題解決的な学習のイメージ(第5学年の例)>



##### <低学年>単元計画作成の考え方

第1学年での前・後期、第2学年での前・後期の全4期に間隔を空けて設定する。単元前半で経験した動きを単元後半には「選択」できる場面を設けるようにする。多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる運動遊び、体を移動する運動遊び、力試しの運動遊びの中から一つと、用具を操作する運動遊びを一つずつ毎時間取り入れる。2時間続きで同じ運動遊びを行い、2年間を通してバランスよく、かつ、多様な動きが経験できるようにする。

##### <中学年>単元計画作成の考え方

第3学年での前・後期、第4学年での前・後期の全4期に間隔を空けて設定する。第3学年の前期は、低学年で身に付けた動きを更に広げることが重視し、「試す」→「つくる」の学習を繰り返す。後期は、第4学年への接続を視野に入れ、基本的な動きを組み合わせた運動やゲーム化した運動にも取り組む。第4学年の前期は、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れられるようになることを重視し、「試す」→「つくる」→「紹介する・まねする」学習を繰り返す。後期は、基本的な動きを組み合わせた運動に多く取り組ませることで、動きの洗練化が図れるようにする。

##### <高学年>単元計画作成の考え方

第5学年では、体力を高める運動の行い方を知ること重点を置き、第6学年では、自己の体力に応じた運動を選んだり工夫したりする学習に重点を置く。継続して取り組むことで体力の高まりを実感することができる「体の柔らかさを高めるための運動」は、単元を通して帯で扱うこととする。その他の運動は、取り上げる運動内容に応じて2、3時間をひとまとまりとし、課題解決的な学習を積み重ねながら運動に取り組むようにする。

全学年共通して、単元のはじめに体ほぐしの運動を設定する。体ほぐしの運動のねらいを十分に味わわせることで、その後に行う多様な動きをつくる運動(遊び)や体力を高める運動に児童が意欲的に取り組めるであろうと考えた。

##### イ 一単位時間の学習の工夫

児童は、自らの課題の解決に向けて学習を行うことを通して、思考力・判断力・表現力等を高めながら、技能の伸びを実感し、運動の楽しさや喜びを味わうことができると考える。そこで、6年間を通して、課題の解決の仕方を学び、思考力・判断力・表現力等を高めることができるよう、発達の段階に応じた一単位時間の中での課題解決的な学習の在り方を次のように示した。

＜低学年＞多様な動きをつくる運動遊び

活 動		課題解決的な学習の内容
①	試す	基となる動きを先生や友達と一緒にやってみる。
②	楽しむ	友達との関わりやゲーム等を通して、動きを楽しむ。
③	見付ける	友達のよい動きを見付ける。(第1学年) いろいろな動きのポイントを見付ける。(第2学年)
④	振り返る	自分(たち)の活動について振り返る。

＜中学年＞多様な動きをつくる運動

活 動		課題解決的な学習の内容
①	試す	基になる動きをやってみる。
②	つくる	基になる動きがより楽しく(難しく)できるように工夫する。
③	紹介する・まねする	できた動きを紹介したり、他のグループで出された動きをまねしたりする。
④	振り返る	自分(たち)の活動について振り返る。

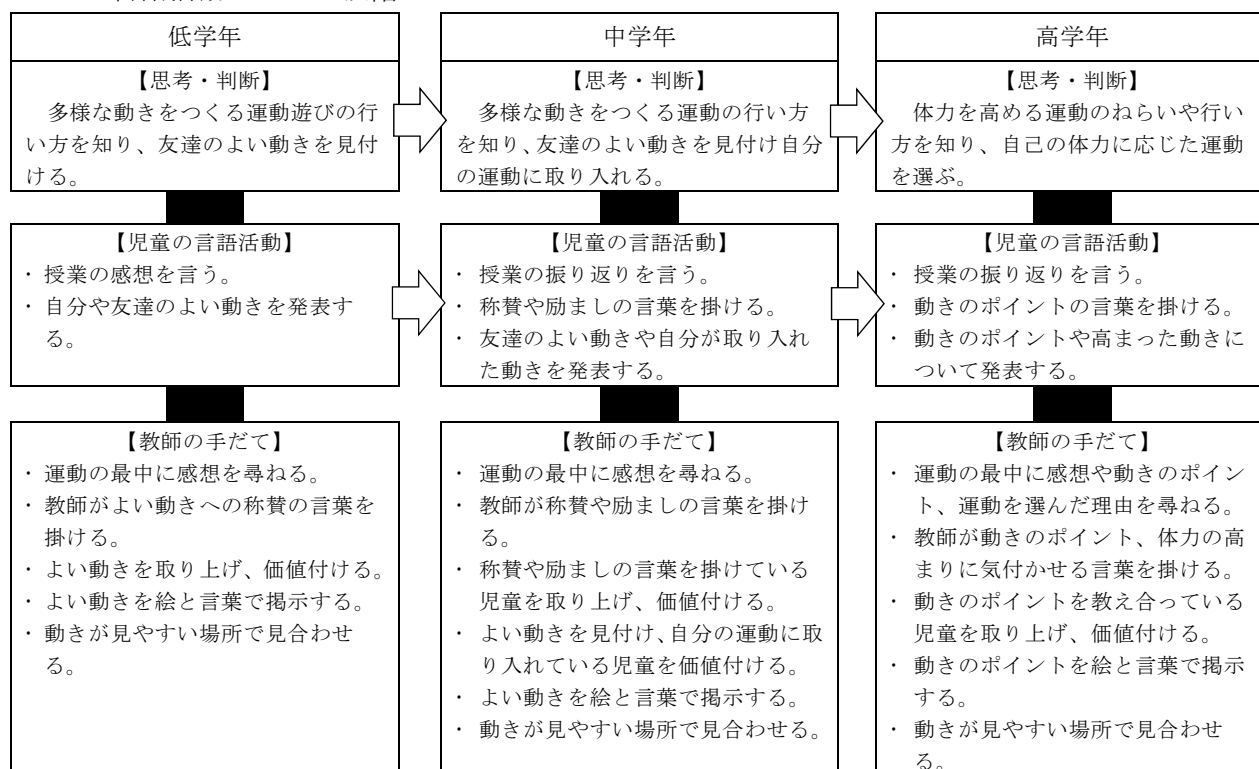
＜高学年＞体力を高める運動

活 動		課題解決的な学習の内容
①	知る	体力の必要性や高め方を知る。自己の体力を知る。基になる動きを知る。
②	分かる	基になる動きに取り組み、ポイントを見付け、見付けたポイントを共有する。
③	取り組む	条件を変化させた動きや工夫した動きに取り組み、ポイントを見付ける。
④	解決する	動きがなめらかになったり、記録が伸びたりする。
⑤	振り返る	自分(たち)の活動について振り返る。

ウ 言語活動の充実

学習指導要領には、各教科の指導に当たっては、児童の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実することが示されている。学習指導要領解説 体育編に示されている思考・判断を基に各発達段階における児童の言語活動の具体的な姿を目安として示し、系統的に言語活動の充実を図るようにしていく。

＜言語活動の3つの段階＞



## (2) 指導と評価の工夫

### ア 「指導のねらい・内容」を明確にした単元計画・評価計画

どの学年においても単元のはじめに体ほぐしの運動に取り組む。運動経験の有無が影響することなく、運動の得手不得手を越えて、仲間と運動を楽しんだり協力して運動課題を達成したりすることができるためである。全学年共通で、1時間目は「関心・意欲・態度」、2時間目は「思考・判断」の順で評価を行うこととした。この2時間で、楽しく運動できる行い方を選ぶなどしておくことが、多様な動きをつくる運動（遊び）や体力を高める運動において、運動の行い方を工夫することにつながっていくと考えた。

多様な動きをつくる運動遊びと多様な動きをつくる運動、体力を高める運動は、発達の段階を考慮し、指導の内容・ねらいに即した重点評価項目を設定した。また、児童のつまづきを予想し、その支援策を示すことで、ねらいと支援方法との関連をもたせた。

低学年の多様な動きをつくる運動遊びでは、2時間続きで同じ運動遊びを扱うこととした。まず、児童が楽しく取り組む姿として「関心・意欲・態度」を、次にその結果として様々な体の動きができる「技能」の順で評価する。単元の最後の3時間は、動きのレパートリーを増やしていくことを目指し、「思考・判断（運動を選ぶ）」→「思考・判断（友達の良い動きを見付ける）」→「技能」の順に評価することとした。

中学年の多様な動きをつくる運動では、単元の序盤に用具を操作する運動を扱い、「技能」を評価する。これは、検証授業を通して、用具操作は技能面を評価しやすく、また、努力を要する児童を把握し、以降の指導に生かすことができると分かったためである。中盤では、学習を進めるにつれて高まってきた「関心・意欲・態度」を評価する。児童に課題解決的な学習が身に付いてくる終盤に、「思考・判断」を評価する。単元の最後の3時間は、これまでに必要な支援を行ったことで高まった「技能」→「思考・判断（取り入れる）」→「思考・判断（自分の体力を知る）」の順で評価することとした。

高学年の体力を高める運動では、まず運動の行い方や内容を知る必要があると考えた。行い方や内容が分かることで関心や意欲をもって取り組むことができ、自分の体力に目を向けることができる。そして、自分の体力を知り、実態に合った運動の選択や工夫を考え取り組むことで体力が高まっていく。そのため、「思考・判断（知る）」→「関心・意欲・態度（取り組む）」→「思考・判断（選択・工夫する）」→「技能」の順で評価することとした。

### イ 思考・判断に焦点を当てた支援計画

評価に当たっては、関心・意欲・態度や思考・判断、技能の全てを評価することが必要である。しかし、本研究では、研究主題「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考え工夫する体育学習」のとおり、課題解決的な学習を通して児童が「自ら考え工夫する」ことに焦点を当てている。そこで、単元計画とともに、「思考・判断に焦点を当てた支援計画」を作成し、併せて活用することを提案する。学習活動のどの場面で児童に「思考・判断」をさせ、毎時間どのように思考力・判断力を付けていくのか、また、教師は単元を通して何を意識して児童を観察し、指導や支援をすればよいのかを明確にした。児童が思考・判断したことやその過程の評価は、説明や話し合いといった言語活動及び学習カード等を通じて行われる。そのため、言語活動の充実のための工夫を支援計画の項目として設けた。

#### 4 各学年実践例

##### (1) 低学年実践例(第1学年)

ア 単元名 「体づくり運動」～動きを楽しもう 広げよう～ (14時間)

イ 単元の目標

運 動	○次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるようにする。 ・体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなで関わり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。 ・多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などをすること。
態 度	○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	○体を動かすと気持ちがよいことに気付き、運動の行い方を選ぶことができる。

ウ 単元の評価規準 ※( )は、第2学年

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動に進んで取り組みようとしている。</li> <li>・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。</li> <li>・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>・運動する場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、運動の行い方を選んでいる。</li> <li>・多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。</li> <li>・多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや用具を操作したり力試しをしたりする動きができる。</li> </ul>
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体づくり運動に進んで取り組みようとしている。</li> <li>②運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。</li> <li>③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>④運動する場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体ほぐしや運動遊びの行い方や運動を知っている。</li> <li>②運動の行い方や動きを工夫するための条件、用具の使い方を選んでいる。</li> <li>③友達のよい動きを見付けている。 (④いろいろな運動の仕方を見付けている。)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。</li> <li>②速さやリズム、方向などを変えて、体を移動する動きができる。</li> <li>③用具を操作する動きができる。</li> <li>④力試しの動きができる。</li> </ol>

エ 本時の学習（2 / 14 時間目）





(7) 目標(◎は重点)

・体ほぐしの運動に進んで取り組むことができるようにする。【態度】

◎体ほぐしの運動の行い方を知り、心と体の変化に気付くことができるようにする。

【思考・判断】

(イ) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ(○)・評価(☆)
<p>1 整列、挨拶をする。 2 学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>友達と一緒に体ほぐしの運動を楽しもう。</p> </div>	<p>○掲示資料を用いて前時の学習を振り返り、学習課題と本時の流れを確認する。</p>
<p>3 体ほぐしの運動をする。</p> <p>① びよびよちゃん</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師が行った動きを、児童が真似して行う。「こんなことこんなことできますか？」という教師の投げかけに、「こんなこと、こんなことできますよ。」という児童の返事を入れ、リズムののりながら運動に取</p> </div> <p>② 猛獣狩り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>掛け声とともに大きく体を動かしながら、猛獣狩りの様子を演じる。最後に、教師の言った動物の名前の文字数で、友達と手をつないで座る。</p> </div>  <p>③ みんなでポン！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループの友達と手をつなぎながら、ボールを落とさないように、はじく。紙風船など軽いものから、徐々にソフトバレーボールなど使用する。また、新聞紙なども使用するなど材質、形状の違うものを使用する。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>ドキドキチェック！</b></p> </div> <p>④ ラインウォーク</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学級全員で手をつなぎ、教師を先頭に体育館のラインの上を歩く。慣れてきたら、ライン以外に教師の歩いたあとをついて歩くようにする。</p> </div>  <p>⑤ ストレッチ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>深呼吸をしながらゆっくりストレッチを行う。2人1組になって、体を伸ばしたり引っ張り合ったりするときには、相手のことを考え、強く引っ張りすぎないように気を付ける。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>ドキドキチェック！</b></p> </div>	<p>○本時で取り組む運動を意識し、使用する部位を中心に、大きな動作で行うようにする。</p> <p>○多くの児童と関わり合いができるように、毎回違う児童と組むよう言葉掛けをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆体を動かすと気持ちがいよことや心臓の鼓動が激しくなるなど心と体の変化に気付いている。【観察・学習カード】</p> <p>《つまずき》【思考・判断】 心と体の変化に気付くことができない。 《具体的な支援》 「たくさん動くとどんな気分になるかな。」</p> </div> <p>○運動する前と後の違いに気付かせるように言葉掛けをする。</p> <p>○ペアでの関わり合いを深めるため、「痛くないかな。」などと声を掛けながら行うよう言葉掛けをする。</p>
<p>4 学習の振り返りをする。 ① 学習カードに記入する。 ② 気付いたことを発表する。 5 整列、挨拶をする。</p>	<p>○次時の多様な動きをつくる運動遊びへの意欲を高まるような言葉掛けをする。</p>





カ 思考・判断に焦点を当てた支援計画 (第1学年)

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
目標・児童の姿	体ほぐしの運動の行い方を知っている。	人数が増えることに慣れる。運動が楽しくなることに向けて、準備運動やストレッチになることに慣れる。	体のバランスをとる運動遊びの行い方を知っている。	体を移動する運動遊びの行い方を知っている。	体を移動する運動遊びの行い方を知っている。	友達と一緒に運動の行い方を知っている。	友達と一緒に運動の行い方を知っている。	体ほぐしの運動の行い方を知っている。	動き方を工夫するための条件(人教・姿勢)や用具の使い方を理解している。	力試しの運動遊びの行い方を理解している。	動き方を工夫している。動きを見つけている。	多様な動きをつくる運動遊びの行い方を理解している。	動き方を工夫している。友達の良い動きを見つけている。	動き方を工夫するための条件や用具の使い方を理解している。
学習内容	<p>○オリエンテーション</p> <p>○体ほぐしの運動</p> <p>1 学習課題の確認</p> <p>2 学習の進め方を知る</p> <p>3 体ほぐしの運動をやってみる</p> <p>1 h ・びよびよちゃん</p> <p>・金身じやんけん</p> <p>【ドキドキチャエツク】</p> <p>・言うこと一筋</p> <p>・だるまさんの一日</p> <p>・ストレッツ</p> <p>【ドキドキチャエツク】</p> <p>2 h ・びよびよちゃん</p> <p>・壁蹴り</p> <p>・みんなでポン!</p> <p>【ドキドキチャエツク】</p> <p>・ライントウマーク</p> <p>・ストレッツ</p> <p>【ドキドキチャエツク】</p>													
	<p>○準備運動</p> <p>○体のバランスをとる運動遊び</p> <p>3 h 回る、寝転ぶ、起きる</p> <p>・1回転じやんけん</p> <p>先生とみんな</p> <p>・アットでコロコロ</p> <p>先生の手本</p> <p>→1友達と一緒に</p> <p>4 h 走る、立つ、バランスをとり</p> <p>・背中合わせで座る立つ</p> <p>2人で →複数</p> <p>・合図でポーズ</p> <p>決まった動き</p> <p>→好きな動きで</p>													
具体的支援	<p>○振り返り</p> <p>たくさん運動の行い方を覚えてきた。準備運動やストレッチが楽しくなってきた。友達の良い動きを見つけた。友達の動きを真似してやってみよう。先生の話をよく聞いてやる。友達の話をよく聞いてやる。</p>													
	<p>○振り返り</p> <p>たくさん運動の行い方を覚えてきた。準備運動やストレッチが楽しくなってきた。友達の良い動きを見つけた。友達の動きを真似してやってみよう。先生の話をよく聞いてやる。友達の話をよく聞いてやる。</p>													
支援	<p>○振り返り</p> <p>たくさん運動の行い方を覚えてきた。準備運動やストレッチが楽しくなってきた。友達の良い動きを見つけた。友達の動きを真似してやってみよう。先生の話をよく聞いてやる。友達の話をよく聞いてやる。</p>													
	<p>○振り返り</p> <p>たくさん運動の行い方を覚えてきた。準備運動やストレッチが楽しくなってきた。友達の良い動きを見つけた。友達の動きを真似してやってみよう。先生の話をよく聞いてやる。友達の話をよく聞いてやる。</p>													

(2) 中学年実践例(第4学年)

ア 単元名 「体づくり運動」～動きを楽しもう 高めよう～ (15時間)

イ 単元の目標

運 動	○次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。 ・体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなで関わり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。 ・多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせること。
態 度	○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	○体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。

ウ 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・用具の使い方や運動の行い方のきまりを守ろうとしている。</li> <li>・運動する場や用具の使い方等の安全を確かめようとしている。</li> <li>・友達と励まし合って運動しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動したり、用具を使って運動したりするなど運動の行い方を選んでいる。</li> <li>・多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに友達の良い動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。</li> <li>・運動の組み合わせ方を考え工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。</li> <li>・これまで学習してきた動きが安定してできる。</li> </ul>
学習活動に即した評価規準 第三学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体ほぐしの運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>②友達と協力し、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>③用具の使い方(一輪車・竹馬)や運動の行い方のきまりを守ろうとしている。</li> <li>④友達と仲よく体ほぐしの運動をしようとしている。</li> <li>⑤運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体ほぐしの運動で、心が弾んだり、気持ちが変わったりすることに気付いている。</li> <li>②ものを運ぶ運動で、用具の使い方を選んでいる。</li> <li>③体のバランスをとる運動の動き方のポイントや動きのこつが分かる。</li> <li>④体のバランスをとる運動の行い方を基に、運動を作ったり動きの違いを見付けたりしている。</li> <li>⑤用具を操作する運動(ボール)で友達の良い動きを見付けている。</li> <li>⑥用具を操作しながら移動するなどの基本的な動きの組み合わせを見付けている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボールを操作し、ボールに合わせた動きができる。</li> <li>②姿勢や方向などを変えて体を移動する動きや、体のバランスをとる動きができる。</li> <li>③短なわを操作し、短なわに合わせた動きができる。</li> <li>④輪を操作し、輪に合わせた動きができる。</li> <li>⑤基本的な動きを組み合わせた動きができる。</li> </ol>
学習活動に即した評価規準 第四学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体ほぐしの運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>②体のバランスをとる運動や力試しの運動などに進んで取り組もうとしている。</li> <li>③用具の使い方や運動の行い方のきまりを守ろうとしている。</li> <li>④友達と励まし合って体ほぐしの運動をしようとしている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体ほぐしの運動で、楽しく運動できる行い方を選んでいる。</li> <li>②体を移動する運動の行い方(工夫の視点)を基に、運動をつくったり、動きの違いを見付けたりしている。</li> <li>③用具を操作する運動(短縄)で友達の良い動きを見付け、自分の動きに取り入れている。</li> <li>④用具を操作しながら移動するなどの基本的な動きの組み合わせ方を選んでいる。</li> <li>⑤力試しの運動をしながら移動するなどの基本的な動きの組み合わせ方を見付けている。</li> <li>⑥基本的な動きを組み合わせる運動を行い、自分の体力に気付く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①用具を操作する運動で、ボールを操作し、ボールに合わせた動きが調子よくできる。</li> <li>②姿勢や方向などを変えて体を移動する動きや、体のバランスをとる動きができる。</li> <li>③腕の引き方や押し方、重心のかけ方などを変えて、力試しの運動ができる。</li> <li>④基本的な動きを組み合わせた動きができる。</li> <li>⑤組み合わせた動きが安定してできる。</li> </ol>

エ 本時の学習（5 / 15 時間目）

(7) 目標(◎は重点)

- ◎姿勢や方向などを変えて、体を移動する動きや体のバランスをとる動きができる。【運動】
- ・用具の使い方や運動の行い方のきまりを守ることができる。【態度】
- ・運動を楽しくする行い方を活用して、平均台を渡っている。【思考・判断】

(4) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ(○)・評価(☆)
<p>1 整列 挨拶 準備運動 (→集合)</p>	<p>基の動きをもっと楽しい運動にするにはどうしたらいいかな？</p>
<p>主運動につながるゲーム的な活動をする。(→集合)</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>○本時の学習につながる動きで体を十分に動かせるように、「くもおに」(線の上)を行う。 (増やし鬼のルールで、鬼は、はいはいに変わる)</p>
<p>「体を移動する運動」「体のバランスをとる運動」に挑戦しよう。</p> <p>3 体を移動する動きに挑戦する。</p> <p>①試す：這う。</p> <p>手や足を地面・床にしっかりとついて進むこと</p>  <p>②つくる：基本の動きがより楽しく(難しく)なるようにグループでつくる。</p>  <p>③紹介する：②でつくった運動を兄弟グループで紹介し合う。(5分程度)</p> <p>◆紹介する側「〇〇の視点を加えて、こういう動きにしました。」</p> <p>◆見る側自分たちとの違いを見付ける。(ホワイトボードに記入)</p>	<p>○「外してはいけないポイントは？」と問い、基本の動きはどんな動きか全体で確認する。</p> <p>○前時までに出てきた工夫の視点(人数・方向・リズム・姿勢等)を活用して、「他のグループが考えないような動きをつくらう。」と指示する。</p> <p>○すぐに動きをつくれずにいるグループには「視点のどれを使おうかな？」と助言する。</p> <p>例) 人数：友達とリレー形式で競争してみよう 方向：横や後ろに方向を変えて リズム：進んで止まって、スピードを変えて 姿勢：大歩き、腕歩き、おしり歩き、足首をもって 用具：ボール足に挟んで</p>
<p>用具の準備(→集合)</p> <p>4 体のバランスをとる運動に挑戦する。</p> <p>①試す：平均台を渡る。</p> <p>平均台の上をバランスを取りながら移動すること</p>  <p>②つくる：基本の動きがより楽しく(難しく)なるようにグループでつくる。</p>  <p>③紹介する：②でつくった運動を兄弟グループで紹介し合う。(5分程度)</p> <p>◆紹介する側「〇〇の視点を加えて、こういう動きにしました。」</p> <p>◆見る側自分たちとの違いを見付ける。(ホワイトボードに記入)</p>	<p>○平均台を運ぶ際、安全に配慮するよう指示する。</p> <p>○前時までに出てきた工夫の視点を活用して、「他のグループが考えないような動きをつくらう。」と指示する。</p> <p>例) 人数：両側から出発し、入れ替わりながら 方向：後ろ向きで リズム：スキップで 姿勢：くま歩きで、ケンケンで 用具：ボールを投げ上げながら、つきながら</p> <p>《つまずき》【思考・判断】 運動の工夫の仕方がねらいとしている動きから逸れている。 《具体的な支援》 「外してはいけない動きのポイントは？」</p> <p>《つまずき》 すぐに動きをつくれずにいる。 《具体的な支援》 「視点のどれを使おうかな？」</p> <p>☆姿勢や方向などを変えて、体のバランスをとる運動ができています。【技能】(観察)</p> <p>○よい動きを取り上げる。 ○時間があれば、自身の変容を実感させるため、もう一度基本の動きに取り組ませる。</p>
<p>5 整理運動をする。 振り返り -ペアで手足ぶらぶら等、リラックスして行う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ④振り返る：学習カードに記入する。 -発表、次時の予告</p> <p>7 片付けをする。</p> <p>8 整列・挨拶をする。</p>	<p>○記述欄には、「学習課題の答え」や「自分たちと兄弟グループの運動の違い」を書くように指示する。</p> <p>○書けない児童には、「やってみてよかったところ、こうしたらもっとよい!」を書こう」と助言する。</p>





(3) 高学年実践例 (第5学年)

ア 単元名 「体づくり運動」～運動の行い方を知ろう 取り組んでみよう～ (12時間)

イ 単元の目標

技 能	○次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさ味わうとともに、体力を高めることができるようにする。 ・体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付いたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。 ・体力を高める運動では、ねらいに応じて体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動をすること。
態 度	○運動に進んで取り組み、助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
思考・判断	○自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫できるようにする。

ウ 単元の評価規準 ※( )は、第6学年

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単 元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、自分の体力に応じて柔らかさ及び巧みさを高める運動に進んで取り組もうとしたりしている。</li> <li>・約束を守り、友達と助け合って運動をしようとしている。</li> <li>・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。</li> <li>・運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動のねらいを知るとともに、ねらいに応じた運動の行い方を選んでいる。</li> <li>・体力を高める運動のねらいや行い方を知るとともに、自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。 (・自分の体力に合った運動を工夫している。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力を高める運動では、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動のねらいに合った動きができる。</li> <li>・体力を高める運動では、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動のねらいにあった動きができる。</li> </ul>
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体づくり運動に進んで取り組もうとする。</li> <li>②用具の使い方や運動の行い方のきまりを守って運動しようとしている。</li> <li>③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>④場や用具の安全に気を配り、互いに協力して運動しようとする。</li> <li>⑤友達に言葉をかけたり、運動の補助をしたりして、協力して運動しようとする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①運動のねらいや行い方がわかっている。</li> <li>②自分の体力から課題をつかめている。</li> <li>③自分の体力に合った運動の行い方を選ぶことができている。</li> </ol> <p>(④自分の体力に合うように運動の行い方を変えることができている。)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①体の可動範囲を広げ、柔らかさを高める運動ができる。</li> <li>②タイミングやバランス、リズムなど力を調整しながら巧みな動きを高めるための運動ができる。</li> <li>③人や物の重さなどを用いた力強い動きを高めるための運動ができる。</li> <li>④時間やコースを決めて全身で行う動きを持続する能力を高めるための運動ができる。</li> </ol>

エ 本時の学習（8／12 時間目）

(ア) 目標(◎は重点)

◎体の可動範囲を広げ、柔らかさを高める運動ができる。【運動】

・友達に声をかけたり、運動の補助をしたりして、協力して運動しようとしている。【態度】

・自分の体力に合った運動の行い方を選ぶことができる。【思考・判断】

(イ) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ（○）・評価（☆）
1 整列、挨拶をする。 2 ①知る：本時の学習内容を確認する。	○体力を高める4つの運動を掲示し、意識付けを図る。
自分の体力に合った運動の行い方を選び、巧みさを高めよう。	
3 準備運動をする。	○体の可動範囲を広げるとともに、心拍を上げ、体が温まるような運動を行う。
4 体の柔らかさを高めるための運動をする。 ◎分かる：のびのびストレッチを行う。 ・両手伸ばし ・ひざ倒し ・背伸ばし ・もも引き ・肩伸ばし ・股関節伸ばし	○正しい動きを身に付けられるように、全員で同じ動きに取り組む。 ○動きのポイントを意識して行わせる。 ☆体の可動範囲を広げ、柔らかさを高める運動ができる。【観察・学習カード】
5 場や用具の準備をする。  6 巧みな動きを高めるための運動をする。 ◎分かる：長なわを行う。(基になる動き・・・8の字跳び) ◎取り組む◎解決する：条件を変化させた動きに取り組む。 ・向かえ跳び ・ブーメラン跳び ・クロス跳び ・ステップを変えて跳ぶ ・友達と跳ぶ ・中で短なわを跳ぶ ・中でボールを操作しながら跳ぶ	《つまずき》【運動】 柔らかさの高まりが感じられない。 《具体的な支援》 「息を止めずに、呼吸しながら取り組もう。」  ○条件を変えた動きを提示し、自分の体力に合った運動の行い方を選び、取り組めるようにする。
○ドリブル移動(基になる動き・・・ボールをつきながら移動) ◎取り組む◎解決する：条件を変化させた動きに取り組む。 ・ジグザグコース・またぎコース ・段差コース ・ケンパーコース ・渡りコース ・後ろ向きで移動する ・友達と動きを合わせて移動する。	○なぜできるようになったのか、なぜうまくいかないのかをグループで考え、共有する。 《具体的な支援》【思考・判断】 「この運動を選ぶと縄を調整する動きが高まるよ。」 「君の課題は正確にボールをつくことだからもっとつくことに集中しやすい動きに取り組むといいよ。」
7 整理運動をする。 8 学習の振り返りをする。 ◎振り返る：学習カードに記入する。 ・動きの高まりのあった友達を発表したり、動きのポイントを確認したりする。 9 用具や場の片付けをする。 10 整列、挨拶をする。	○学習の振り返りをカードに記入し、動きの高まりを確かめられるようにする。 ○基になる動きに取り組んでいた時と、今の自分の動きの違いを振り返らせる。 ○動きの高まりのあった児童を発表させ、動きのポイントや選択の仕方のよさを共有する。

才 単元計画・評価計画 (第5学年)

時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
重要評価項目	友誼と協力して用具の準備や片付けをする。 (調③)	運動のねらいや行い方を知ることができ、 (高①)	体力を高めるための運動は、自分の体の動きを高めるための運動であることをや自分自身の動きを高めるための行い方を知ることができ、 (高②)	用具の使い方や運動の行い方のきまりを中って運動することができる。 (調②)	タイミングやパス、リブズなどを知ることができ、 (株②)	自分の体力を知り、自分に合った運動をつかむことができる。 (高③)	準備や用具の安全に気を配り、互いに協力して運動することができる。 (調④)	体の可動範囲を広げ、柔軟性を高めるための運動ができる。 (株①)	友誼と協力して準備や片付けたり、運動の補助をしたりして運動することができる。 (調⑤)	自分の体力に合った運動の行い方を準備することができる。 (高⑥)	運動のねらいや行い方を知ることができ、 (高⑦)	人や物の置きなどを適切に力強い動きを高めるための運動ができる。 (株③)	
学習内容	○オリエンテーション ○準備運動 ○用具や場の準備 ○体ほぐしの運動 1 学習課題の確認 2 学習の進め方を知る 3 体ほぐしの運動をやってみる ・やや活発的な運動をする。「風船運び」 ・ゆったりと動いた運動をする。「ペアストレッチ」 ・気持ちをあわせて遊んで遊動的な運動をする。「あんだがたどことさ」	○オリエンテーション 1 学習課題の確認 2 体力の要素や必要性について知る 3 体力の高め方について知る ○準備運動 ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ①「短なわ」 ②「ボールキャッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きに取り組む	○オリエンテーション 1 学習課題の確認 2 体力の要素や必要性について知る 3 体力の高め方について知る ○準備運動 ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ①「短なわ」 ②「ボールキャッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きに取り組む	○準備運動 ○体の柔らかさを高めるための運動 ①「のびのびストレッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ③「長なわ」 ④「ドリブル移動」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きにグループで取り組む	○準備運動 ○体の柔らかさを高めるための運動 ①「のびのびストレッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ③「長なわ」 ④「ドリブル移動」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きにグループで取り組む	○準備運動 ○体の柔らかさを高めるための運動 ①「のびのびストレッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ③「長なわ」 ④「ドリブル移動」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きにグループで取り組む	○準備運動 ○体の柔らかさを高めるための運動 ①「のびのびストレッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ③「長なわ」 ④「ドリブル移動」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きにグループで取り組む	○準備運動 ○体の柔らかさを高めるための運動 ①「のびのびストレッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ③「長なわ」 ④「ドリブル移動」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きにグループで取り組む	○準備運動 ○体の柔らかさを高めるための運動 ①「のびのびストレッチ」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける ○用具や場の準備 ○巧みな動きを高めるための運動 ③「長なわ」 ④「ドリブル移動」 1 動きを確認しながら取り組む 2 動きのポイントを見付ける 3 条件を変化させた動きにグループで取り組む	○準備運動 ○用具や場の準備 ○自分の体力に合った運動の行い方を選んで工夫して取り組む ・巧みな動きを高めるための運動の中から、一単位時間の中で二つの動きを選んで取り組む ・条件を変化させた動きにグループで取り組む	自分の体力に合った運動の行い方を選んで工夫して取り組む。 (高⑧)	運動のねらいや行い方を知ることができ、 (高⑨)	人や物の置きなどを適切に力強い動きを高めるための運動ができる。 (株③)
学習内容	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け
学習内容	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け
学習内容	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け	○整理運動 ○振り回り ○後片付け





## VIII 成果と課題

東京都教育研究員共通テーマ「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」を受け、「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考え工夫する体育学習」という研究主題を設定し、研究の視点として、課題解決的な学習の在り方の明確化、指導と評価の工夫を挙げて研究を進めてきた。

### 成果

- ・課題解決的な学習を踏まえて作成した、体づくり運動の指導計画に、学習活動に即した重点評価項目を設定した。評価の観点を重点化し、計画的に児童を見取っていくことで、運動の質・量を確保しつつ「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能」の3観点についてバランスよく評価することができ、学習効果を高めることができた。
- ・東京都教育研究員共通テーマである児童の思考力・判断力・表現力等を高めるため、毎時間の授業で、思考・判断に関する目指す児童の姿を明らかにした。そして、つまづきに応じた支援計画を立てて学習を進めていくことで、動きを選んだり、工夫したり、動きのポイントについて互いに話し合ったりするなど、主体的に運動に取り組む児童が増えた。
- ・「楽しい」と感じることを大切に授業を進めることで、児童が自発的に学習に取り組み、体力を高めていく姿を見取ることができた。

### 課題

- ・低・中・高の3分科会に分かれて検証を行い、検証のための授業を繰り返し行った。児童の様子や学習シート、事後アンケートなどから、研究したことの有効性は認められたが、他領域への汎用性、運動の日常化へとつなげていくことが課題として挙げられる。指導前中後でのアンケート調査を活用するなどして、研究の有効性を実証するための手立てをさらに考え、改善していく必要がある。

### <引用文献及び参考文献>

小学校学習指導要領（文部科学省 平成20年3月）

小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省 平成20年8月）

言語活動に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～〔小学校版〕

（文部科学省 平成22年12月）

中央教育審議会答申（平成20年1月）

総合的な子供の基礎体力向上方策（第2次推進計画）

（東京都教育庁指導部指導企画課 平成25年2月）

学校体育実技指導資料 第7集 体づくり運動—授業の考え方と進め方—（改訂版）

（文部科学省 平成24年7月）

「体づくり運動」実践事例集（東京都教育庁指導部指導企画課 平成23年3月）

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 体育】

（文部科学省国立教育行政研究所 教育課程研究センター 平成23年11月）

フロー体験 喜びの現象学（M. チクセントミハイ 今村浩明訳 平成8年）

体育授業の「運動の楽しさ」に関する因子分析研究（徳永 幹雄 昭和55年）

# 平成 26 年度 教育研究員名簿

## 小 学 校 ・ 体 育

### 低学年分科会

地 区	学校名	職 名	氏 名
新 宿 区	落 合 第 三 小 学 校	主幹教諭	鈴 木 信 成
品 川 区	鈴 ヶ 森 小 学 校	主任教諭	伊 藤 優
杉 並 区	杉 並 第 一 小 学 校	主任教諭	辻 健 一
小 平 市	小 平 第 七 小 学 校	主任教諭	松 田 弦
福 生 市	福 生 第 六 小 学 校	主幹教諭	調 鈴 木 輝
羽 村 市	羽 村 東 小 学 校	主任教諭	☆ 榎 本 弘 和
あきる野市	増 戸 小 学 校	主任教諭	内 堀 敏 治
西 東 京 市	谷 戸 第 二 小 学 校	主任教諭	藤 井 歩

### 中学年分科会

地 区	学校名	職 名	氏 名
江 東 区	明 治 小 学 校	主幹教諭	☆ 黒 木 美 穂
大 田 区	矢 口 小 学 校	主任教諭	研 佐 藤 公
荒 川 区	第 三 日 暮 里 小 学 校	主任教諭	杉 山 和 美
八 王 子 市	第 六 小 学 校	主任教諭	戸 村 真 二 郎
八 王 子 市	加 住 小 学 校	主任教諭	渡 邊 幹
府 中 市	矢 崎 小 学 校	主任教諭	境 義 史
町 田 市	つ く し 野 小 学 校	主任教諭	品 川 泰 崇
瑞 穂 町	瑞 穂 第 四 小 学 校	主任教諭	椎 本 一 成

### 高学年分科会

地 区	学校名	職 名	氏 名
江 東 区	豊 洲 北 小 学 校	主幹教諭	◎ 井ノ口 達哉
目 黒 区	下 目 黒 小 学 校	主任教諭	野 口 真 一
豊 島 区	目 白 小 学 校	主任教諭	鈴 木 祥 浩
北 区	滝 野 川 第 四 小 学 校	主任教諭	林 岳
板 橋 区	常 盤 台 小 学 校	主任教諭	評 松 川 清
足 立 区	栗 原 小 学 校	主任教諭	谷 井 泰 介
江 戸 川 区	上 一 色 南 小 学 校	主幹教諭	☆ 横 山 豊
武 蔵 野 市	第 三 小 学 校	主任教諭	河 野 和 顕
日 野 市	滝 合 小 学 校	主任教諭	土 屋 功

◎全体世話人 ☆分科会世話人 □研究部・調査部・評価部 各部長  
 [担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 山口 信忠

平成26年度  
教育研究員研究報告書

小学校・体育

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕  
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社